

第十六回 忠順大賞

(令和三年度)

入賞作品

- ・応募総数 一六八八首
- ・久米翠雲先生 選評

小学生の部

豊田市市長賞

堤小二年 足立 蓮音

おじいちゃんギターをひいて

ぼく。ピアノカ

またやろうね大すきコンピ

※音楽好きなおじいちゃんとは。二人がコンピを組んで演奏する。聴くのは家族。楽しいですね。下の句がいい。

豊田市議会議長賞

堤小六年 中村 旺介

お父さん画面こしでは会えるけど

やっぱり一緒にすごしたいな

※お父さんは単身赴任？遠いところだと行き来も出来ない。このコロナ禍では直接会うことも出来ない。下の句に中村君の思いが、ぐっと迫ってくる。

豊田市教育委員会賞

駒場小二年 水元 惺介

クリスマススクッキー作り兄弟で

サンタさんへのぎやくプレゼント

※サンタさんがプレゼントをくれた。お返しをしよう。お姉さんとクッキー作りをしてお返しをした。第五句が楽しい。サンタさんも喜んでるね。

中日新聞社賞

堤小三年 菅原 月光

ポロポロな毎日使ったスパイクで

けたたボールゴールの中へ

※すごいね！三年生でスパイクがポロポロになるまで、練習したんだ。大会でゴールが決まった時はうれしかったね。これからがんばれ！

会長賞 金賞

駒場小六年 神谷 実花

あたたかい空気生み出すどんと焼き

炎を見ながらおもちを食べる

※秋葉神社の祭礼の一環として行われる「どんと焼き」。もうほとんどの地域で無くなっている。懐かしいですね。顔をほてらせながら、餅を食べる。

会長賞 銀賞

駒場小四年 鈴木 爽太

ママソングで母のおっさんさげび声

ちよっぴりてれるでもうれいいな

※我が子が懸命に走る。必死に応援する母の叫び声が聞こえた。下の句で、鈴木君の思いが充分表現されています。照れちゃうんだよね。でも…！

会長賞 銅賞

駒場小二年 花井 葉椰

ならいごとまい日ダンスたのしいな

おんがくなれば体もつこく

※本当に心からダンスが好きなんだ！毎日練習してきたんだね。楽しくて仕方がないというすがよく分かる。これからも楽しんでください。

優秀賞 (三名)

堤小六年 田村 華音

新年の最初のテレビバクバクと

心音ひびく箱根駅伝

※正月の恒例となった箱根駅伝。それを見ている田村さんの心の様子が良く表現されています。心音バクバクなど強烈な言葉、よく伝わり面白い。

堤小一年 吉田 翔瑛

あさごはんしっかりたべる

おいしいぞ

みんなとたべてげんきが出るよ

※起きた順に、別々に朝ごはんを食べたら、うまくないし、元気も出ない。吉田君は家族で食べることが、楽しくて、元気モリモリだという。いいね！

堤小四年 甲村 獅温

暗い朝空見上げれば星光る

星には見えないお空の宝

※朝早く起きて、東の空を眺めると輝く星が一杯ある。それは昼間には見えない。空の宝物だと見ている甲村君は詩人です。



「みんなで楽しむ短歌づくり」教室風景
講師 久米翠雲先生

中学・一般の部

豊田市長賞

駒場町 清水 宣子

振り回し冷たくなったタオル巻き

秋の種蒔く畑耕す

※暑い日、秋蒔きの準備、畑を耕す。濡らしたタオルも熱くなる。また水に濡らし、振り回して首に巻く。頑張っておられる様子が浮かびます。

豊田市議会議長賞

前林中二年 清水 優太

帰省してみんなで競う背の高さ

しるしに付ける僕伸びたよね

※帰省すると「大きくなったね！」が第一声。毎回、いと同じ土で背比べをする。また伸びた、嬉しい。でも、おばあちゃんは背が低くなるね。

豊田市教育委員会賞

前林中二年 伊藤 琉那

思い知る当たり前だった日常が

今となつては貴重な一日

※コロナ禍でもう二年。運動もおしゃべりも勉強も制限される。何でもできる日常がこんなにも貴重と思いが知らされる。初句の倒置法がいいですね。

中日新聞社賞

前林中一年 鈴木 悠斗

初めての美容室に行き髪を切る

友に褒められ照れた想い出

※今までは理容室で髪を切っていたが、中学に入つて初めての美容室。教室に入るのが恥ずかしかつたが、友に誉められ照れた。下の句―素直でいい。

会長賞 金賞

前林中二年 嵯峨 知芭

冬休み猫とこたつでまったりと

のんびり過ごすいやしの時間

※猫はこたつで丸くなる。部活も休み。今日はゆつくりかわいい猫とたわむれる。いやしの時間。「まったり」の表現が短歌の情感を豊かにしている。

会長賞 銀賞

前林中一年 川合 玲菜

初対面マスクのせいで顔見えず

マスクの下の笑顔も見たい

※中学入学当初からマスク生活。同級生、先輩たちマスクでは笑顔が見えない。マスクなしで笑う笑顔が見たいね。

会長賞 銅賞

前林中町 小島よし子

小春日にコスモス揺れる

休耕田(やすみだ)へ

遠回りして夫(つま)と語らう

※小春日に夫と連れ立って、用事を済ませた。「暖かで気持ちがいいから、コスモス畑を見ていこう！」遠回りだったが…。下の句がいいですね。

優秀賞(三名)

前林中三年 船越 愛理

透き通る池をのぞけばもう一つ

映る四人と快晴の青

※修学旅行かな？グループを組んで散策中。池の水面が鏡のようにきれいだつた。皆で覗いた。四人の顔だけでなく青い空が背景に。いい風景だね。

前林中一年 安江 煌太

弟はいつも生意気なんだけど

時には兄に甘えてくれる

※兄弟つていいね！弟はこの子も生意気に見えるものだけど…。いつもは甘えてくれないけれど。下の句から安江君の「弟大好き」がよく分かる。

前林中三年 西島 実優

こんには一言だけでスマイルに

現地の人もみんなスマイル

※修学旅行の時の一場面ですね。グループで散策中、その土地の人(?)に元氣よく挨拶をした。にこやかに応えてくれた。旅が楽しくなつたね。

第十六回「忠順大賞」に一六八八首の作品をいただきました、

二月三日事務局での一次審査を経て久米翠雲先生による最終審査で二十名の入選者が決定しました。先生には選評も添えていただきました。

今年度もコロナ禍のため、学校生活の行事も縮小、中止が多く、自粛生活も長く続いており大変だつたと思います。そんな中での、なんでもない出来事から生まれてくる作品。家族の風景、心温まる人と人との繋がりが伝わってくる様々な短歌がとても多かったように思います。コロナ禍の中でお忙しい中、指導・協力して頂いています小・中学校の先生方には感謝しかありません。ありがとうございます。また、地域内外から応募して頂いた大勢のかたに感謝致します。

(事務局 川村